

同志社大学

同志社社史資料センター報



第14号
2017年度

1. 巻頭言：2017年度の報告にあたって
2. コラム：吉海直人氏／林田明氏
3. 資料業務
4. 展示
5. 公開講演会・シンポジウム
6. 研究活動
7. 第175回新島襄生誕記念会
8. ハリス理化学館同志社ギャラリー
9. 新島旧邸
10. 委員会

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年 2月18日
2012年 2月16日
2013年10月26日
2015年 3月28日

(設置)

第1条 本学に同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) ハリス理化学館同志社ギャラリーの管理運営に関すること。
- (6) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (7) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (9) その他必要な事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、事務局長、人文科学研究所長、歴史資料館長、企画部長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校から各1名
- (4) 学識経験者若干名

2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。

5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、第3条に掲げる事項についてセンター委員会の要請に基づき、必要な事項を検討する。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が委嘱する者若干名
 - (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附則)

この規程は、2015年4月1日から施行する。

2017年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所 長 小林 丈広

2017年度は、昨年度に引き続き、同志社が未来に向けて着実に歩むにあたり、同志社社史資料センターが日常的に抱えている課題を解決しながら、地道に基礎固めをする年となった。

ハリス理化学館同志社ギャラリーでは、次のような展示を開催した。まず2017年5月16日から7月9日まで同志社大学地学研究会との共催で地学研究会創立50周年記念として第12回企画展「新島襄が感じた地球」を開催した。7月1日には本学理工学部教授の林田明氏による公開講演会が行われ、新島襄の地学や天文に関する知見や関心について具体的に紹介され、新島の知られざる一面に光が当てられた。さらに、2018年3月13日からは4月28日までの予定で第14回企画展「同志社社史資料センター2017年度新収蔵品展」を開催しているところである。また、同志社大学歴史資料館の主催により2017年10月14日から12月3日まで第13回企画展「弥生・古墳集落とモノ作り～京都盆地・淀川流域を中心に～」が開催された。10月29日には交野市教育委員会の真鍋成史氏、京都府教育委員会の古川匠氏らによる公開講演会が行われ、京都市域から南山城地域にかけての近年の考古学における研究成果がわかりやすく紹介された。

一方、常設展示室「同志社の今」では、2017年3月28日から5月6日まで同志社大学美術部クラマ画会の春の学内展「いぶき」、5月16日から7月9日まで地学研究会による特別陳列「地学に魅せられた五十年の軌跡、そして未来へ」、10月3日から15日まで美術部クラマ画会の後期展「秋の躍動」が開催された。同志社ギャラリーが開館して5年目を迎え、学生の課外活動やゼミの研究成果を発信する場として定着しつつあるといえよう。

さて、いよいよ同志社創立150周年まであと7年となった。当センターではそれに備えて、資料の収集・整理・保存という、大学アーカイブズとしての本来業務に本格的に取り組んでいる。『同志社百年史』の編纂以来、数多くの資料が収集されたものの、活用されているのはごく一部である。まずは、それらの整理を進め、将来の編纂事業、あるいは活用・公開に対応できるようにしたい。

2017年度末には、『同志社百五十年史』の編纂に向けて、編纂準備委員会を発足することができた。当面は、編纂事業を本格的に始めるにあたり基本となる方針について検討を行う予定であるが、将来、本格的に編纂を開始する際には、組織・人員・予算の問題だけでなく、資料を保存・活用するための施設や調査・編集を行うためのスペースなど多くの課題に取り組む必要があるものと考えている。今後とも、同志社内外の方々のご協力をお願いしたい。

新出八重書簡の紹介と解説

同志社女子大学
吉海 直人

【解説】

八重の人生を知るためには、一通でも多くの書簡が必要である。これまで徳富蘇峰や風間久彦宛書簡を発表してきたが^(注)、このたび新出の八重書簡が社史資料センターで見つかった。それは昭和七年二月二十九日に島本(徳三郎)宛に書かれたものである。これは八重が亡くなるわずか四ヶ月前の書簡であり、それだけでも貴重な書簡と思われるので、ここに紹介する次第である。ただし完璧に読めているわけではないので、是非御意見・御叱正をお願いしたい。

ところで昭和七年、八重は数えて米寿を迎えるに際して、

あしたづの鳴くを聞きつつ嬉しくも米^{よね}てふ文字の年を迎へぬ

と詠じている。「米てふ文字」は「八十八」を意味する表現である。その年の二月十一日、栄光館の竣工式終了後、京都ホテルで八重の米寿祝賀会が盛大に開かれる予定であったが、八重の体調が思わしくなかったことで会は開けず、祝賀金と紅白の鏡餅が八重に贈呈されたとのことである。

これまでその件に関する資料は見当たらなかったが、この新出書簡によって八重の病状の一端が明らかになった。また同志社女学校(同窓会)から沢山の祝い金を頂いたことも確認することができた。

この折の八重の病気は大変重篤だったらしく、長く床に伏していたために、骨と皮ばかりに痩せたと書かれている。また体が痛むので、頂いた祝賀金で敷布団を新調したこと、暖房のための薪炭費に充当したらしいことが記されている。

病気による出費(支払)が嵩み、祝賀金も底をついてしまい、雇っていた看護婦(訪問看護)への代金(臨時出費)が支払えそうもないので、後二ヶ月ほど援助を続けてほしいと島本に懇願(無心)している。

手紙の宛先人である島本は、同志社の財務部長・島本徳三郎のことと思われるが、この書簡が出現したことにより、八重が島本から数ヶ月に渡って金銭的に援助を受けていたことも明らかになった(同志社から支給されていた分とは別)。

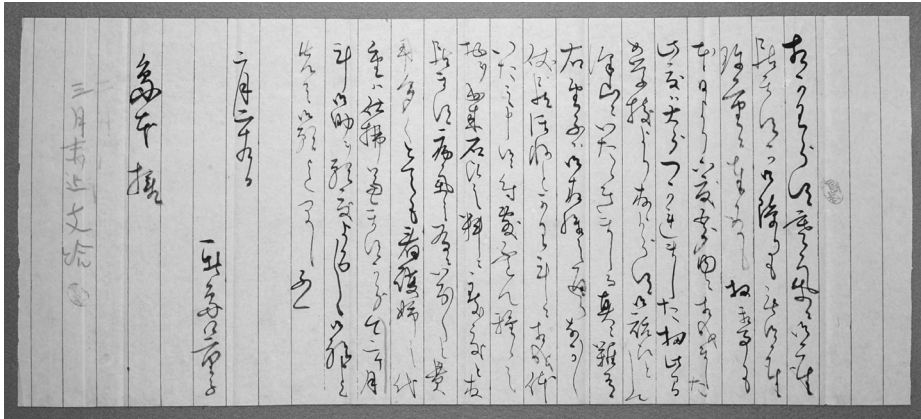
末尾に朱筆で「三月末迄支給」とあるのは、このあと三月末まで島本が金銭的援助を続けたという意味であろう。いずれにしても晩年の八重の暮らしは案外大変だったことが窺える。

なお、この後八重の病状は奇跡的に回復し、四月には大澤徳太郎の邸で米寿を祝う茶会が催されている。五月には、京都附近配属将校研究会の求めに応じて「新島八重子刀自懷古談」を自宅で語っている。そして亡くなる三日前(六月十一日)には、大徳寺で催された眞精院(千猶鹿子)の十七回忌茶会にも看護婦付き添いで出席している。

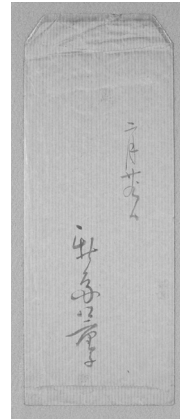
六月十四日、急性胆嚢炎で死去。享年八十六。八重の葬儀は十七日、二月に落成した栄光館ファウラーチャペルで同志社葬として行なわれた。

(注) 吉海「八重の蘇峰宛書簡六通の紹介―徳富蘇峰記念館所蔵―」総合文化研究所紀要30・平成25年7月、
吉海「八重の風間久彦宛書簡の紹介―風間健氏所蔵―」総合文化研究所紀要31・平成26年7月

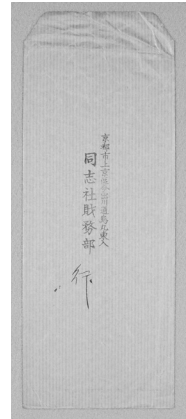
八重書簡



本 紙



封筒裏



封筒表

【翻刻】昭和七年二月二十九日島本徳三郎宛書簡

相かわらず寒気に御座

居ますが障りも無御座

珍重に奉存候。扱私事も(1)

本日より六度五分内(2)に相成ました。

此度は大分つかれました。扱此間

女学校より存じよらず御祝ひ(3)として

沢山にいたゞきまして真に難有、

右金子は御存様之通りながなが

伏居、ほねとかわ斗に相成、体

いたみ申候に付、敷ぶとん程々之

物ヲ出来、石頃之料(4)に致度と存

居ます。病氣之為にいろいろと費

用多く、とても看護婦之代

金は仕払兼ますから今二ヶ月

斗御助ヲ願度よろしくお願申上

先はお願迄早々 不一

二月二十九日

新島八重子

島本様

三月末迄支給(5)

(注)

(1)「も」と読んだが「乍(ながら)」のくずしかもしれない。

(2) 発熱が収まつて平熱に戻ったということか。

(3) 八重の米寿の祝賀金のこと。

(4) 「石頃之料」は不明。あるいはセントラルヒーティングに用いる燃料(石炭のこと)か。

(5) 別人による朱筆。島本の覚書か。

新島襄の「地質構造図」

理工学部教授
林田 明

新島襄の遺品の一つとして、「地質構造図」と題された杉箱入りの図版(26.3×165cm)が同志社社史資料センターに所蔵されている。この図は新島が地質学に興味を持っていたことを示すものとしてしばしば取り上げられてきたが、これまでその正体や来歴は明らかにされていなかった。ハリス理化学館同志社ギャラリー第13回企画展『新島襄が感じた地球』(2017年5月16日～7月9日)の開催にあたって、筆者は「地質構造図」の記載内容を検討し、これが19世紀前半の代表的地質学者であり神学者であったウィリアム・バックランド(1784―1856)の著作の添付図に相似ていることを確認した。バックランドの図については企画展の図録に紹介したが、ここで図録の出版後に得られた情報を付け加え、新島の図の由来について述べてみたい。

新島の「地質構造図」には、大規模な山脈を造る花崗岩とその上位に重なる古生代から中生代にかけての地層、それらに貫入した玄武岩や噴火中の火山、第三紀以降の堆積物などが描かれている。断面図の地質時代名や地層の説明はブロック体の文字で記されているが、凡例の一部は新島の筆跡と思われる筆記体で書かれている。また、岩脈と一部の地層は彩色されているが、断面図の大部分は白く残されている。

一般の地質断面図は、地表に露出する岩石や堆積物の分布や構造に基づいて地下の様子を推定した結果を示すものである。しかし、新島の図は個別の地質調査の成果というよりも、大規模な地殻上部の構造を概念的に表現しているように見える。19世紀におけるそのような概念図の代表例が、1836年に出版されたバックランドの自然神学書『地質学と鉱物学、自然神学的考証』に添えられた図版である。この図は地質学者トマス・ウェブスター(1773―1844)が描いたヨーロッパ大陸の模式的断面図を基にしているが、ここに示された地形と地殻の構成は新島の図と酷似しており、地層名も類似のものが多い。バックランドの図には120種類の動植物化石と地質系統との対応も示されており、地球の歴史に関する当時の知識を総括した力作として、チャールズ・ダーウィン(1809―1882)など多くの人々に影響を与えたとされている。

新島の「地質構造図」はバックランドの断面図とよく似ているものの、活火山にETNAという名前が示され、地層名の表現が異なっていたりすることから、バックランドの図版そのものを書き写したとは思えない。そこでさらに探索を続けたところ、やはりウェブスターの図を基にしたジョン・モリス(1810―1886)の地殻断面図が存在することを知った。モリスの図とその解説書は1858年にロンドンで出版されており、バックランドの図と同様に特定の地域の地質断面ではなく、ヨーロッパ大陸で行われてきた地質学の研究成果を盛り込んだものである。ただし、断面図の説明の一部にイギリス固有の地層名が用いられていることが特徴となっている。これらを含め、新島の図の地層名や凡例はモリスのものと正確に一致しており、文字

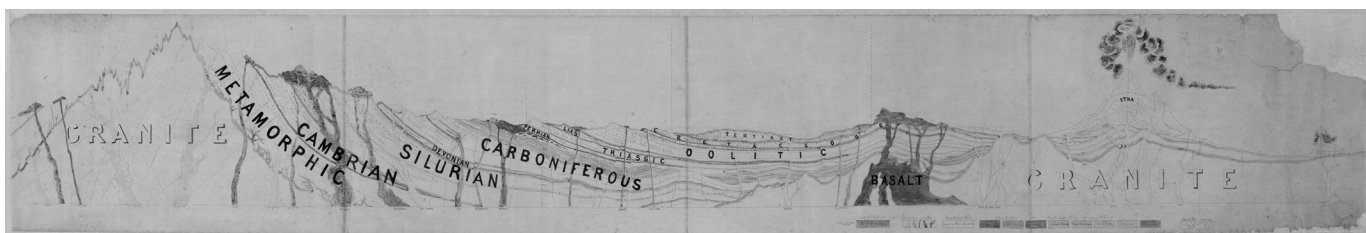
の書体や火山の噴煙の様子も同様に描かれている。二つの図を比べると、まるで薄紙を重ねてなぞり書きをしたようにも見える。

新島の「地質構造図」がモリスの図の模写であることは確かであるが、それがいつどこで描かれたのか、その経緯はわからない。ただ、1872年4月から翌年9月にかけて、いわゆる岩倉使節団の一員であった田中不二麿に随行しヨーロッパに滞在した新島が、そこでモリスの図を目にした可能性を想像してみたい。新島はアーモスト大学で地質学や鉱物学を学び、野外での地質観察や鉱物採集を行っていたが、アンドーヴァー神学校に進んだ後、ヨーロッパ訪問後の1873年11月にエドワード・ヒッチコック(1793－1864)の『地質学の宗教』(1860年版)を購入している¹。アーモスト大学の卒業後、新島の地質学への興味はさらに高まっていたことが窺える。

一方、ジョン・モリスは1855年から77年までロンドンのユニヴァーシティ・カレッジで地質学の教授を務めており、1866年には日本人留学生の野村弥吉(1843－1910)に地質学の優等生修学証書を授与した経験²を有している。野村は、新島が函館から脱国する前年(1863年)に横浜からイギリスへ密航した長州ファイブの一人であり、1868年に帰国した後、井上勝と改名し、明治政府の高官として鉄道建設などに活躍した人物である。新島の日記には、1872年6月19日にユニヴァーシティ・カレッジを訪問し、その附属学校で学んでいた菊池大麓(1855－1917)に会ったことが記されている³。このような機会に新島がモリスの本に出会ったり、地質学や他の自然科学の展開について知見を広げたりすることはなかったのだろうか。ヨーロッパにおける新島と科学技術との関わりについて、今後の調査研究の進展に期待したい。

(注)

- 1 島尾永康、「新島襄と自然科学」、科学史研究Ⅱ、25巻、83－88(1986)。
- 2 犬塚孝明、『アレキサンダー・ウィリアム・ウィリアムソン伝 ヴィクトリア朝英国の化学者と近代日本』、海鳥社(2015)。
- 3 新島襄全集編集委員会『新島襄全集』第7巻、同朋舎(1996)。



新島襄作「地質構造図」(同志社社史資料センター蔵)

資料業務

1. 資料整理

1. 資料業務

- ・収蔵資料
 - 遺品庫 約6,500点
 - 資料室 約12,200点
- ・蔵書冊数
 - 図書 12,721冊
 - 逐次刊行物 1,087タイトル

2. 参考業務

- ・レファレンス数 702件
 - 文献調査 211件
 - 事項調査 456件
 - その他 35件

2. 資料提供 (写真資料を中心に)

新島学園	テレコムスタッフ
NHK出版	株式会社アフロ
(株)ベストセラーズ	時代考証学会運営委員
キリスト聖書塾	有限会社 リゲル社
日本キリスト教団出版局	株式会社BS-TBS
会津まつり協会	株式会社プラメイク
ジェイアール東日本企画仙台支店福島営業所	歴史教育者協議会
野外博物館北海道開拓の村	ラムダプロダクション
NHK文化センター	時事通信出版局出版事業部
テレビ朝日	熊日出版(熊日サービス開発株式会社)
株式会社 山川印刷所	株式会社テレビュー福島報道製作局
株式会社ミネルヴァ書房	TBSビジョン制作一部
株式会社東京ビデオセンター	

博物館実習の受け入れ

【同志社大学「学外実習」受入れについて】

本年度は8名の学生を受け入れ、2グループ（第1期：8月2日～4日、第2期：8月29日～31日）に分け、毎日3時間、合計9時間の実習を行った。テーマを「資料の分類整理の実際」と設定し、資料室②の未整理資料のうち、キャンパスの古写真を実習材料とした。それぞれの古写真につき、調書の作成、分類、撮影までを行い、資料データベースの作成過程の一部を実習した。



実習風景

【同志社女子大学「博物館実習」受入れについて】

本年度は3名の学生を受け入れ、8月22～28日の5日間、毎日5時間半の実習を実施した。実習の目的を大学アーカイブズの意義をふまえた常設展示の企画と設営と設定し、大学アーカイブズに関する講義、展示施設の見学、資料の出納に関わる調書の作成、江戸時代の新島襄をテーマとした展示資料の選定と展示図面の作成、展示資料の説明文作成にあたっての作文指導と文献の読み方の指導、そして、展示設営の実践を行った。実習生が設営した展示は実習生の成果展として2017年8月29日から10月28日まで一般公開した。



作業風景

展 示

1. 展示活動

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室

第12回企画展

テーマ：同志社大学地学研究会創立50周年記念「新島襄が感じた地球」

期 間：2017年5月16日(火)～2017年7月9日(日)

主 催：同志社大学地学研究会・同志社社史資料センター

来場者数：12,240人

実施日数：48日

展示説明会

日 時：2017年5月21日(日) 13:00～ 参加者22人

15:00～ 参加者12人

2017年7月1日(土) 公開講演会終了後 参加者60人



第14回企画展

テーマ：同志社社史資料センター2017年度新収蔵品展

期 間：2018年3月13日(火)～2018年4月28日(土)

主 催：同志社社史資料センター

来場者数：2,161人(2018年3月31日現在)

実施日数：40日



常設展示室「同志社の今」特別陳列

第18回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会 春の学内展「いぶき」

期 間：2017年3月28日(火)～2017年5月6日(土)

主 催：同志社大学美術部クラマ画会

来場者数：1,998人

実施日数：25日



第19回

テーマ：同志社大学地学研究会 地学に魅せられた五十年の軌跡、そして未来へ

期 間：2017年5月16日(火)～2017年7月9日(日)

主 催：同志社大学地学研究会

来場者数：4,512人

実施日数：48日



第20回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会 後期展「秋の躍動」

期 間：2017年10月3日(火)～2017年10月15日(日)

主 催：同志社大学美術部クラマ画会

来場者数：785人

実施日数：11日



2. 展示協力

新島会館への展示協力

「新島八重の生涯」をテーマに、新島八重関係資料(レプリカ)と写真パネルを貸出

同志社京田辺会堂光館ラウンジ展への展示協力

上記で実施された第5期展「同志社のGLOCAL—京田辺とのあゆみ—」(会期:2017年3月～9月)
第6期展「同志社のORIGIN—ALL DOSHISHAからのサポート—」(会期:2017年9月～2018年3月)
において、企画、立案、準備、設営に関して協力

「戌辰前夜」への展示協力

若松城天守閣郷土博物館が主催する上記企画展(会期:2017年9月15日～11月5日)へ勝海舟筆
「六然之書」を貸出

「麻田浩～小さな絵の世界～」への展示協力

南丹市立文化博物館が主催する上記企画展(会期:2017年9月30日～11月26日)へ麻田浩作の
肖像画「横井時雄」「下村孝太郎」を貸出

「『日本少年』重見周吉の世界展」への展示協力

NPO法人アイムまつやまが主催する上記企画展(会期:2017年11月1日～11月20日)へ新島襄宛
N. Porter書簡(1885年1月24日付)および池袋清風日記(1884年1月24日の記述)の資料画像デー
タを提供

「愛以貫之一同志社女子大学のキリスト教主義教育」への展示協力

同志社女子大学史料センターが主催する上記企画展(会期:2017年11月17日～2018年7月31日)
へ資料6点を貸出、資料画像データ9点を提供

「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 熊本」への展示協力

「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 熊本」実行委員会が主催する上記企画展(会期:2018年1月
16日～1月21日)へDoshisha College Song譜面1点(W. M ヴォーリズのサイン入り)を貸出

公開講演会・シンポジウム

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示

同志社大学地学研究会創立50周年記念 「新島襄が感じた地球」公開講演会

演 題：「新島襄の地球」

講 師：林田 明氏（同志社大学理工学部教授）

日 時：2017年7月1日(土) 13:00～14:30

場 所：明德館1番教室（同志社大学今出川キャンパス）

参加者：120名



地域協力

- ・2018年1月19日(金)、京都市立第三錦林小学校6年生の人権学習に協力し、尹東柱詩碑及び鄭芝容詩碑を説明



説明風景

- ・2017年10月7日(土)～10月17日(火)、源氏藤袴会主催の「2017年香りが町を包む『藤袴祭り』」でスタンプラリーに協力



期間中の新島旧邸玄関

- ・2018年3月24日(土)、京都市教育委員会生涯学習部主催の「ICOM推進月間事業」のひとつ「京都ミュージアムウォーク」に協力し、新島旧邸での解説を実施



解説風景

研究活動

機関誌の刊行や第1部門研究(新島研究)の研究会や機関紙の刊行は次の通りである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会(代表 横井 和彦)

第164回例会	<p>2017年4月10日(月)</p> <p>『新島研究』108号論評会</p> <p>「裏の寒梅と八重の寒梅—2編の寒梅の詩に関する疑問を解く—」 報告者：大越 哲仁 論評者：森 一郎</p> <p>「シーリー夫人とジェイムズ兄弟の血縁関係—系譜の詳細と“いとこ”同士の交流—」 報告者：磯 英夫 論評者：北垣 宗治</p> <p>「新島裏の福島伝道—会津若松教会の設立を巡って—」 論評者：本井 康博</p>
第165回例会	<p>2017年5月15日(月)</p> <p>「デイヴィスの三田伝道—三田公会が組織されるまで」 報告者：森永 長壹郎</p>
第166回例会	<p>2017年6月12日(月)</p> <p>「新島裏の按手札におけるシーリー教授の記念説教」 報告者：北垣 宗治</p>
第167回例会	<p>2017年7月10日(月)</p> <p>「受洗までの栗津高明」 報告者：中島 一仁</p>
第168回例会	<p>2017年8月5日(土)</p> <p>企画テーマ「新島裏の米欧教育視察1872～73年」 司会：北垣 宗治</p> <p>基調報告「新島裏の米欧教育視察」 報告者：井上 勝也</p> <p>企画報告1「新島裏の米欧教育制度調査と文部省『理事功程』」 報告者：大越 哲仁</p> <p>企画報告2「新島裏の教育への関心はいつ頃獲得できたのか？」 報告者：坂井 誠</p> <p>企画報告3「新島精神の形成と米欧教育視察体験との意味連関」 報告者：明楽 誠</p> <p>質疑応答</p> <p>個別報告① 『『アルフィーアス・ハーディー夫人菊』の歴史的意義について』 報告者：磯 英夫</p>
第4回同志社 を語る会	<p>2017年9月11日(月)</p> <p>「同志社のスポーツ—フェアプレーに徹したラグビーを中心に—(続) 編」 報告者：金 泰成 ゲスト：田淵和彦</p>

第169回例会	2017年10月16日(月) 「東華学校の開校と東北伝道の開始」 報告者：本井 康博
第170回例会	2017年11月13日(月) 「女子教育者としての望月興三郎について」 報告者：山下 智子
第171回例会	2017年12月11日(月) 「新島襄にとって、究極目的とは何か」 報告者：井上 勝也
第172回例会	2018年1月15日(月) 「『新島襄全集』における宗教観関連語彙の計量的分析」 報告者：神田 朋美
第5回同志社 を語る会	2018年3月12日(月) 「新島襄の足跡を辿る 南九州編」 報告者：田島 繁

第1部門研究(新島研究)運営委員会(2017年度)

横井 和彦(代表)、生田 香緒里、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第109号 A5判 242頁 2018年2月28日発行

論 叢	「新島襄の米欧教育視察1872～73年」記念シンポジウム	
	新島襄の米欧教育視察	井上 勝也
	新島襄の米欧教育制度調査と文部省『理事功程』(要約)	大越 哲仁
	新島襄の教育への関心はいつ頃獲得できたか？	坂井 誠
	新島精神の形成と米欧教育視察体験との意味連関	明楽 誠
	シンポジウム総合討論	
	新島襄の米欧教育制度調査と文部省『理事功程』	大越 哲仁
	新島襄のラットランドでの2つのスピーチ	三好 彰
	新島襄と会津若松教会設立期の人々—民権家と熊本洋学校のネットワーク—	山下 智子
	下村孝太郎と新島襄との往復書簡—1881年～1890年—	森 一郎
	受洗までの栗津高明—新島襄関係史料から探る人物像と入信の動機—	中島 一仁
資料紹介	『東華学校ものがたり』補遺	本井 康博
エッセイ	新島襄の足跡を辿る イギリス編—リヴァプール、マンチェスター、グラスゴー、 エディンバラ、ロンドン、オックスフォード、ケンブリッジ—	田島 繁
	J・D・デイヴィスの兵庫県三田伝道—三田公会が組織されるまで—	森永長壹郎

『新島研究』編集委員会(2017年度)

横井 和彦(委員長)、生田 香緒里、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

3. 機関誌

『同志社談叢』第38号 A5判 158頁 2018年3月1日発行

論 叢	新島襄の按手札におけるシーリーの記念説教 文部省『理事功程』覚え書—新島襄作成説攷—	北垣 宗治 竹内 力雄
資料紹介	『水俣市所蔵・淇水文庫徳富蘇峰寄贈図書目録』の作成経緯とその意義 —「水俣町の精神的方面の燈台」復元を期して 占領軍同志社関係資料(2) 戦前・戦中期における同志社退職者関係報告書 住谷天来と堀口家—堀口家寄贈住谷天来資料について—	田中 智子 伊藤 彌彦 山下 智子
目 録	新島襄関連の文献目録(36) 購入資料・受贈資料目録	

『同志社談叢』編集委員会(2017年度)

小林 丈広(委員長)、伊藤 彌彦、物部 ひろみ、大島 中正、横井 和彦

4. 刊行物

『同志社大学 同志社社史資料センター報』第13号(2016年度)
(2017年4月発行)

『2017年度 新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2018』
(2018年3月発行)

『新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集』編集委員会(2017年度)
生田 香緒里(委員長)、森永 長壹郎、大鉢 忠、大島 中正

第175回 新島襄生誕記念会

日時：2018年2月13日(火) 17:30～19:15

場所：同志社礼拝堂

表彰

第25回新島研究論文賞

森 一郎 (元同志社女子中学校・高等学校校長)

第25回新島研究功績賞

井上 勝也 (同志社大学名誉教授)

新島襄生誕記念懸賞論文(2017年度)

【中学校の部】

最優秀賞

山口 環弥 (同志社女子中学校1年)

「新島襄先生—キリスト教と科学のつながり—」

優秀賞

東 真央 (同志社中学校1年)

「私が新島先生から学んだこと」

中村 ゆう (同志社国際中学校3年)

「Yae NEESIMA: Living as Who I Am」

佳 作

松本 岳 (同志社中学校1年)

「新島のあこがれたアメリカ—理想国家—」

柴崎 真愛 (同志社女子中学校1年)

「新島襄の行動力の源について

—学問、キリスト教、教育にかける情熱の原動力—」

道浦 奈緒子 (同志社女子中学校1年)

「女性教育のリーダー—新島八重とミス・デントン—」

清田 拓未 (同志社香里中学校1年)

「新島襄とキリスト教」

大室 美早紀 (風間浦中学校3年)

「新島襄のレジリエンス」

【高等学校の部】

最優秀賞

北山 梨里佳 (同志社女子高等学校3年)

「韓国女子教育の母 淵澤能恵」

優秀賞

馬場 夏未 (新島学園高等学校3年)

「新島襄と福澤諭吉—教育における宗教観—」

佳 作

日野 杏理 (同志社女子高等学校3年)

「新島襄の視点で読み解く現在のアメリカ」

悴田 真帆 (新島学園高等学校3年)

「教育者としての新島襄」

ハリス理化学館同志社ギャラリー

本ギャラリーはハリス理化学館（1890年竣工、1979年重要文化財指定）を2013年にリニューアルした展示施設である。同志社の歴史と創立者新島襄の今に息づく精神を2つの企画展示室と6つテーマに分けた常設展示室に所蔵資料を展示して紹介している。

開館時間 10:00～17:00（入館受付は16:30まで）
閉館日 日曜日（企画展開催中は開館）月曜日、祝日、
ゴールデンウィーク・夏期休暇・冬期休暇の一定期間
実施日数 259日（企画展示室は107日）



2017年度入館者数（2017年4月1日～2018年3月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総入館者	3,375人	3,954人	4,655人	4,397人	5,111人	2,884人
同志社のあゆみ	1,362人	1,605人	1,938人	1,998人	2,410人	1,317人
企画展示室	—	3,965人	5,849人	2,426人	—	—
京都の中の同志社	1,804人	2,222人	2,616人	2,769人	4,518人	2,035人
同志社の今	1,551人	1,782人	2,216人	2,425人	3,265人	1,843人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5,544人	6,816人	3,185人	2,118人	2,803人	4,629人	49,471人
2,312人	3,201人	1,803人	1,142人	1,581人	2,189人	22,858人
2,254人	3,775人	388人	—	—	2,161人	20,818人
2,608人	3,152人	2,219人	1,330人	1,469人	2,274人	29,016人
2,123人	3,009人	1,876人	1,773人	2,022人	2,731人	26,616人

新島旧邸

1875（明治8）年11月29日、同志社英学校がこの地に開校したことを記念し、建学の精神を体感する場として公開している。新島襄の私邸で、ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって1878（明治11）年に建てられた。1985（昭和60）年、調度・家具類を含めて京都市から有形文化財に指定された。建物の保護のため、公開と保存を両立する形に公開方法を見直し、通常公開は、旧邸の周囲からの建物内部見学に留め（建物内への入場は不可）、特別公開のみ、母屋1階と附属屋への入場を可としている。

開館時間 10:00～16:00
通常公開 4月～7月、9月～11月、3月の毎週火・木・土（祝日を除く）
特別公開 4月1日～5日、オープンキャンパス、10月1日～5日、ホームカミングデー、
同志社創立記念日、卒業式

2017年度見学者数

4月	5月	6月	7月
1,256人	673人	605人	434人
9月	10月	11月	3月
502人	797人	1,181人	1,348人
合計	期間外		
6,958人	162人		



委員会

同志社社史資料センター委員会委員 (2017年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
稲岡 恭二	教務部長	後藤貴三恵	中学校・高等学校教諭
濱 吉輝	事務局長	藤井 宏樹	香里中学校・高等学校教頭
八木 匡	人文科学研究所長	平松 譲二	女子中学校・高等学校教頭
石塚 則子	歴史資料館長	戸田 光宣	国際中学校・高等学校教頭
岩田 喬	広報部長	横井 和彦	経済学部教授
吉田由紀雄	法人事務部長		

同志社社史資料センター運営委員会委員 (2017年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
濱 吉輝	事務局長	平松 譲二	女子中学校・高等学校教諭
八木 匠	人文科学研究所長	横井 和彦	経済学部教授
吉田由紀雄	法人事務部長		

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会 (2017年度)

植木 朝子	副学長(委員長)	谷本 高彦	総務部長
小林 丈広	同志社社史資料センター所長(副委員長)	吉田由紀雄	法人事務部長
石塚 則子	歴史資料館長	横井 和彦	キリスト教文化センター所長
石川 立	神学部長	井上 一穂	文学部教授
南井 正廣	グローバル・コミュニケーション学部長		

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会部会 (2017年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(部会長)	井上 一穂	文学部教授
若林 邦彦	歴史資料館准教授	小枝 弘和	社史資料調査員
浜中 邦弘	歴史資料館准教授	布施 智子	社史資料調査員
木谷 佳楠	神学部助教	矢部 景子	社史資料調査員

事務室	所長	小林 丈広
	事務長	上田 裕保
	社史資料調査員	小枝 弘和
	社史資料調査員	布施 智子
	社史資料調査員	矢部 景子
	契約職員	松村 敦子
	アルバイト	3名
	研究補助員	1名

資料整理	学生アルバイト	交代勤務
	大学院生	12名登録
	学部生	25名登録

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改正
2012年2月20日改正

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に基づき、同志社社史資料センター（以下「センター」という）が所蔵する資料等（以下「資料等」という）の利用に関する必要事項を定める。

(利用に関する業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に基づく。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長（以下「所長」という）が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めたときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム（DOORS）に登録された図書とする。ただし、禁帯出図書及び逐次刊行物を除く。

- 2 貸出ができる者は、以下とする。
 - ア) 同志社大学学生・教職員
 - イ) 同志社女子大学学生・教職員
 - ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
 - エ) センターが設置する部門研究の参加者
 - オ) その他、所長が特に認めたもの
- 3 貸出冊数および貸出期間は、本学図書館の貸出要領に準ずる。
- 4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会において決定する。

附則)

この要項は2012年4月1日より施行する。

同志社大学

同志社社史資料センター報 第14号

発行日 2018年4月28日

編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055

<http://archives.doshisha.ac.jp/>

表紙写真：鉄鉱山で探索中の姿を描いた新島襄の自画像